

第628回

I B C番組審議会 議事録

— 議 題 —

凜として

～青い目の人形90周年・戦争と震災を乗り越えて～

平成30年3月16日（金）

㈱ I B C 岩手放送

第628回IBC番組審議会

1. 開催日程 平成30年3月16日（金）午前11時

2. 開催場所 IBCデジタルセンター3階Dホール

3. 委員の出席 委員総数 10名

出席委員 6名

出席委員の氏名

委員長 田代 高章

副委員長 熊谷 志衣子

委員 澤口 たまみ 畠山 俊彰

岩田 圭司 村井 康典

欠席委員の氏名 小松 務 龍澤 尚孝

宮 順子 栗田 均

会社側の出席

鎌田 英樹 代表取締役社長

武田 敏哉 取締役放送本部長

堀米 道太郎 テレビ制作部長

角掛 勝志 テレビ制作部専任部長

(番組担当ディレクター)

事務局

若槻 修 番組審議会事務局長

平澤 泰志 番組審議会事務局員

4. 議題 「凜として～青い目の人形90周年・戦争と震災を乗り越えて～」

5. 議事の概要

<委員の主な発言>

- 戦争中も人形を守った方がいたことに非常に感銘を受けた。時代の雰囲気流されることなく、凛として自分の意思で行動するというメッセージが込められていたように思い、放送局としての気骨というようなものを感じた。
- 昭和初期にこのような草の根交流があったことを知らなかった。良い題材を取り上げたと思う。
- 青い目の人形と答礼の日本人形に託した平和と相互理解の願い、それを後世に伝えていくことの大切さ、そして当たり前なことでも時代によっては大変な勇気が必要になること、そういうことがよく視聴者に伝わった番組だった。格調が高く感銘を受けた。
- 青い目の人形だけに焦点を当てると、「90年前にはるばる日本という異国にやってきて、戦争と今回の津波をくぐり抜けて、それでも生き延びたんだよ」というストーリーになるのかなと思ったが、日本からアメリカに送られた答礼人形のその後も追うことによって、戦争の時代を日米両国がどのように過ごしたかということが対比的に浮き彫りになった感じがした。
- 人形を贈る活動をした米国人宣教師のグーリックさんのお孫さんの取材もしていたので、当時の贈る側のアメリカの方の思いがよく伝わる番組だった。
- 戦争を経て東日本大震災を経て残った人形はかなり修復が困難な状況で見つかったと思う。これを修復した県立博物館の苦労は並大抵ではなかったのではないかとすると、そういう様子も少し入れてもよかったかなと感じた。
- 時系列的な部分の紹介の仕方でやや唐突に感じられるところがあり、いつ頃の出来事かテロップ等があればわかりやすいと思った。